

2024 年度
金城学院大学 自己点検・評価報告書

金城学院大学 内部質保証推進会議

目次

金城学院大学自己点検・評価報告書について	----- 3
凡例	----- 4
金城学院大学内部質保証の方針	----- 5
金城学院中期計画 大学アクションプラン 分掌表	----- 7
金城学院中期計画 大学アクションプラン 2024 年度進捗状況	----- 10
2024 年度独自計画活動報告	-----20
2024 年度学科・専攻数値目標報告	----- 24

金城学院大学自己点検・評価報告書について

金城学院大学

学長 小室尚子

この「自己点検・評価報告書」は、「金城学院大学内部質保証の方針」(2019年度策定)に基づき、本学における教育研究の質の向上と社会的責務を果たすべく、学内の各委員会や各部門(以下「各委員会等」)がみずからの活動について点検・評価した報告をまとめたものです。

各委員会等の活動は、その到達期限を定めた「中期計画到達目標」を踏まえて策定された年度活動計画に従って執り行われています。この「中期計画到達目標」は、「金城学院中期計画(2020～2024年度)」(以下、「学院中期計画」)におけるアクションプランに基づいて、定められたものであり、このことは本学における各委員会等の活動が、第一に学院の基本方針に基づくものであることを示すものでもあります。

本学におけるこうした諸活動について、本学では、自己点検・評価を通じた以下のようなPDCAサイクルによって、質保証を行っています。

まず、毎年3月に各委員会等で策定された次年度「活動計画」(Plan)について、金城学院大学内部質保証推進会議(以下「推進会議」)が審議し、改善・向上等の指示を経て、これを承認します。この活動目標に基づき各委員会等で1年間活動を行い(Do)、その結果を2月に「活動報告」として推進会議に提出します。その後、推進会議小委員会による評価・検証と、推進会議での審議を経て(Check)、次年度の活動につなげていきます(Action)。

この推進会議から本学における全学的な教学マネジメントについて付託されているのが金城学院大学教育課程編成会議(以下「編成会議」)です。編成会議は、教学マネジメントに関係する各委員会等とともにPDCAサイクルを展開しており、そのスケジュールは、おおむね推進会議に準じています。こうした編成会議におけるPDCAサイクルの展開については、推進会議への報告とその承認を経ることで、その適切性を担保するようになっています。

本学では、こうした推進会議と編成会議を中心とするPDCAサイクルを十分に機能させることを通して、本学の教育研究活動に関する質保証の確立とその充実を目指しています。

凡例

- ・ 本報告書に掲げる「金城学院中期計画 大学アクションプラン 2024 年度進捗状況」「2024 年度独自計画活動報告」および「2024 年度学科・専攻数値目標報告」は、各委員会等より提出され、推進会議または編成会議において承認された 2023 年度の活動報告に基づき策定された、2024 年度活動計画についての報告である。
- ・ 「金城学院中期計画 大学アクションプラン」の各項目を担当する部門は「金城学院第 3 期中期計画（2020 年～2024 年度） 大学アクションプラン 分掌表」に記されている。
- ・ 2025 年度から、「中期計画到達目標」は「金城学院中期計画（2025～2029 年度）」におけるアクションプランに基づいて定められ、2025 年度の活動計画もそれに基づいて策定し、実施することとなっている。
- ・ 各々の項目における進捗状況については、その自己評価の内容によって以下の 4 種類の色分けがなされている。

緑	学院中期計画に基づく到達目標を達成した場合、または当年度の活動目標を達成した場合
青	学院中期計画に基づく到達目標が予定通りの進捗状況である場合、または当年度の活動目標をある程度達成した場合
黄	学院中期計画に基づく到達目標が予定より進捗状況が遅れているものの進んでいる場合、または当年度の到達目標があまり達成できなかった場合
赤	学院中期計画に基づく到達目標が全く進捗していない場合、または当年度の到達目標が全く達成されなかった場合

- ・ 「金城学院中期計画 大学アクションプラン 2024 年度進捗状況」および「2024 年度独自計画活動報告」については、活動内容の概要が記されている。ただし、中期計画の進捗に遅滞がある場合、または当年度の到達目標が達成できていない場合は、次年度に向けての改善策を付している。
- ・ 「2024 年度学科・専攻数値目標報告」については、活動内容の概要は記されていない。ただし当年度の数値目標が達成できなかった場合は、次年度に向けての改善策を付している。

金城学院大学内部質保証の方針

2019年11月6日制定

金城学院大学（以下、「本学」という。）は本学の掲げる目標を実現するため、以下の通り、内部質保証の方針を定める。

1 基本的な考え方

- （1）本学は福音主義のキリスト教に基づき、学校教育法にのっとり、女性に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する人物を養成することを目的としている。本学が自ら掲げるこれらの目標の実現に向けて、教育研究活動をはじめとする諸活動は、本学の中期計画に基づき行われ、諸活動に携わる組織自らが、自己点検・評価を行い、質の保証とその改善・向上に向けた恒常的な取組みを推進する。

2 組織

- （1）本学における全学的な内部質保証の取組みは、金城学院大学内部質保証推進会議（以下、「推進会議」という。）が統括・推進し、責任を負う。
- （2）内部質保証の内、本学における教学マネジメントに関わる事項は、金城学院大学教育課程編成会議（以下、「編成会議」という。）が統括・推進し、責任を負う。

3 活動指針

（全学的な内部質保証）

- （1）推進会議は、本学における内部質保証推進のため、金城学院大学内部質保証推進会議規程に定める活動を行う。
- （2）学科・専攻及び委員会（以下、「各部門」という。）は、推進会議の定める基本方針に基づき、毎年度、自己点検・評価を行う。また、各部門は当年度点検・評価の結果及び次年度の計画をまとめ、推進会議に報告・提案し、改善指示に基づき改善に取組み、その結果を推進会議に報告する。推進会議は、各部門による改善結果の報告を受けてこれを確認する。

(教学マネジメント)

- (3) 編成会議は、本学における教育の内部質保証推進のため、金城学院大学教育課程編成会議規程に定める活動を行う。
- (4) 学科・専攻及び教育の内部質保証に係る委員会（以下、「教育の内部質保証に係る各部門」）は、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーに基づき、教育活動等を実施し、編成会議の定める方針に基づき、毎年度、自己点検・評価を行う。また、教育の内部質保証に係る各部門は当年度点検・評価の結果及び次年度の計画をまとめ、編成会議に報告・提案し、改善指示に基づき改善に取り組み、その結果を編成会議に報告する。編成会議は、教育の内部質保証に係る各部門による改善結果の報告を受けてこれを確認する。
- (5) 編成会議は、教学マネジメントに関する自己点検・評価を取りまとめて推進会議に報告する。

4 情報公開

- (1) 本学の社会に対する説明責任を果たすために、毎年度の自己点検・評価報告書等の内部質保証の取組みに関する情報を適切に公表する。

金城学院第3期中期計画（2020年～2024年度） 大学アクションプラン 分掌表

ビジョン	文言	視点	項目	アクションプラン	主な担当
1 教育研究の推進と学習支援	学院の使命にあるように、「主を畏れることは知恵の初め」をスクールモットーとし、真理の探究を行うとともに、全人教育を行い、品格を備えた真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する女性を育成しなければなりません。また、主体的に学び、行動できる人材、グローバル化の中で、異なる言語、世代、立場を超えてコミュニケーションできる人材の養成が求められています。本学では、従来から国際理解を持つ自立した女性の育成を行なってきましたが、より一層、この点を意識して推進します。具体的には、 1 福音主義キリスト教に基づいた品格のある女性 2 自ら課題を発見し、解決できる女性 3 国際理解を持つ自立した女性を育成します。そのため、次の視点から検討し、実施します。	キリスト教主義に基づく全人教育、研究の推進	1 キリスト教主義に基づく全人教育	① 礼拝出席の奨励	キリスト教セ
				② 学生の企画・参加型礼拝の実施	
				③ 近隣教会への出席の奨励	
				④ 金城アイデンティティ科目におけるキリスト教学関係科目の整備	教務委員会
				⑤ 教職員に対する修養会および学生向バイブル・キャンプの充実	キリスト教セ
			2 自ら課題を発見し、解決できるから	① アクティブラーニング等を通じた能動的な学びへの転換の推進	教務委員会 学科 マルチメディアセ
				② リーダーシップ教育の推進	教務委員会 学科
				③ ラーニング・コモンズや図書館の整備と利用の促進	学長室 図書館
			3 国際理解の教育	① 交流協定校の拡大と受け入れ・送り出し留学生の増加	国際交流セ
				② CASEC スコアの経年変化を基礎とした英語教育体制の運用と改善	教務委員会
				③ 金城コア科目における英語および外国語科目の整備	
				④ 学内環境〔学内掲示〕における多言語化の推進	学長室
			4 研究の推進	① 科研費等の競争的外部資金における申請・分担参加の奨励	学長室
				② 学内助成や特別研究期間制度の整備と利用の促進	
				③ 女性みらい研究センターを中心とした地域社会支援プログラムの開発・研究	学長室

		学生支援の推進	1 教 学 面 での支援	① 学修ポートフォリオ等を活用した教育体制の構築	教務委員会 マルチメディアセ
				② ルーブリック等による客観的な成績評価の確立	教務委員会
				③ カリキュラム・マップに基づく履修体制の整備と改善	
			2 生 活 面 での支援	① 学生・キャリア支援センター・教員の三者連携による就職支援の充実	学生生活委員会
				② 学生の課外活動やボランティア活動における支援体制の整備	
				③ 学生のマナー向上の推進	学生生活委員会 マルチメディアセ
				④ 受け入れ・送り出し留学生の経済的支援の充実	国際交流セ
		学生の受入の推進	1 質の高い学生の確保	① アドミッション・ポリシーに基づいた入学選抜の整備	入学セ
				② 入学選抜における「学力の3要素」の多面的・総合的な評価方法の確立	
				③ 新たな大学入学選抜制度に対応する本学入試の検討	
			2 高大連携、接続	① 中高大教育協議会等の活用を通じた学校間における相互理解の拡充	学長室
				② 中高“Dignity”ルーブリックとの連続性を踏まえた高大接続の強化	
		教学マネジメント体制の推進	1 教育体制	① 全学的な内部質保証体制の整備と運用	学長室 FD委員会
				② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施	学長室
				③ ディプロマ・ポリシーに基礎付けられた教学のPDCAサイクルの確立	
				④ アセスメント・ポリシーの適切な運用と改善	

				⑤ 「学生自己評価各期ごとの DP 対応ルーブリック」を通した学修成果の可視化	
				⑥ 外部試験の複数回実施によるコンピテンシーの経年的把握とその向上	
				⑦ 「卒業に関わる科目のルーブリック評価」を用いた学位授与体制の確立	学科
				⑧ 定期的な授業評価の実施と VOX POP の作成・公表による教育力の向上	FD 委員会
2 地域社会との共生	社会の要請に応じ、産業界や行政等と連携を図りながら、研究や社会連携を行います。また、社会人等に対して生涯にわたる多様な学びの場を提供します。そのため、次の視点から検討し、実施します。	研究成果の社会への還元		① 教育・研究活動成果物のリポジトリ等を活用した発信のいっそうの促進	図書館
				② 各種講座、講演会、KIDS センターの子育て支援活動等を通じた地域社会への研究成果の還元	学長室
		生涯学習		① 女性みらい研究センターを中心とした、本学の理念にふさわしい生涯学習に関わるプログラムの開発と実践	学長室
				② 卒業生との連携をより密にとれる体制の構築	
		産学官連携、地域連携		① 地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムせと」等との連携推進	学長室
				② 守山区との連携によるまちづくり、地域福祉向上、産業振興及び教育・文化・スポーツの振興及び発展のための活動推進	

『金城学院大学 2024 年度点検・評価報告書』に対する外部評価

2025 年
評価者：名古屋市守山区長 小島康裕

金城学院第 3 期中期計画（2020 年～2024 年度） 大学アクションプラン 2024 年度進捗状況
—2025 年 03 月 05 日内部質保証推進会議承認・2025 年 05 月 07 日内部質保証推進会議承認—

通 番	ビジョン-視点-項目- アクションプラン	所管 会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2024 年度到達状況	2024 年度活動概要
1	1-1-1-① 礼拝出席の奨励	推進 会議	キリスト教セン ター	学生に向けては、上級生の出席を 促進させるため教員方の協力体制 を強化。教職員に向けては出席率 50 %を目指し、呼びかけを強化 (2020-24)	3_ 計画通り進んでい る	4_目標を達成した	礼拝への出席を奨励するため、朝は伝統的で厳粛な礼を企画実施した。昼はギターによる讃美礼拝など 自由なスピリットの礼拝により学生、教職員に提供した。メール配信、Manaba ニュース機能などで定 期的に配信し礼拝出席を呼びかけた。礼拝出席者数の月平均は 23 年度は 91.1 人に対し 24 年度は 101 人と 112%の増加となった。教職員の出席は 23 年度は毎月の平均は 27 名だったが 24 年度は 23.1 に減 少した。教職員には礼拝出席を促したい。
2	1-1-1-② 学生の企画・参加型礼 拝の実施	推進 会議	キリスト教セン ター	キリスト者学生の協力が不可欠な ので、キリスト者学生の発掘と協 力体制を強化（2020-24）	5_ 到達目標を達成し た	4_目標を達成した	後期に KCF（金城クリスチャン・フェローシップ）と KBS（金城バイブルスタディー）を中心に秋の伝 道週間の証し（奨励）、アドベント期間のキャンドル点灯の役目、クリスマス・ツリー点灯式、大学ク リスマス礼拝の司会、聖書朗読、またイベントの準備などで何人もの学生の参加を得た。
3	1-1-1-③ 近隣教会への出席の奨 励	推進 会議	キリスト教セン ター	機関紙金城台上の教会紹介や牧師 紹介の欄の充実(2020-24)	5_ 到達目標を達成し た	4_目標を達成した	大学広報と協力し学内外に発信しキリスト教センターの働きをより多くの方に知ってもらった。効果的 な広報活動を行ったことにより、クリスマス・ツリー点灯式、オルガン・コンサート、大学クリスマス 礼拝に近隣から多くの参加者を集めた。23 年度より始めた『私の教会』という欄で、まずキリスト者の 大学教職員が通っている教会を紹介していただき、24 年度は近隣教会牧師に記事を書いていただき、良 い教会・牧師紹介の欄となっている。
4	1-1-1-④ 金城アイデンティテ ィ科目におけるキリ スト教学関係科目の 整備	編成 会議	大学教務委員会	2025 年度の新共通教育科目のカ リキュラム改定に向けてキリス ト教学関係科目を検証し、検証 結果を踏まえて科目を整備す る。(2020-24)	5_ 到達目標を達成し た	4_目標を達成した	新共通教育科目の作業部会と連携し、これまでの キリスト教関係科目の履修者状況の検証結果を明示し、キリスト教学関係科目の設定をサポートし た。 2026 年度からの新カリキュラムには、履修者数の多い科目を配置した。
5	1-1-1-⑤ 教職員に対する修養会 および学生向けパイブ ル・キャンプの充実	推進 会議	キリスト教セン ター	教員キリスト教セミナーの出席率 100%を目指してプログラムを検討 改善（2020-24）	3_ 計画通り進んでい る	3_目標をある程度達成で きた	①教員キリスト教セミナーは 23 年度は対象教員 238 人中、出席者は 125 人（53%）だったが 24 年度は 対象教員 235 人中、出席者は 112 人（48%）であった。 ②軽井沢バイブル・キャンプは学生 13 名の申し込みがあったが台風の接近により実施できなかった。 ③学生や教職員向けのメール配信や HP での宣伝や奨励を行った。
6	1-1-2-① アクティブラーニン グ等を通した能動的 な学びへの転換の推 進	編成 会議	大学教務委員会	本学における能動的な学びを取 り入れている科目を調査し、ア クティブラーニングを定義し、 その上で能動的な学びを強調し	5_ 到達目標を達成し た	4_目標を達成した	これまでの調査結果を踏まえ、新しいカリキュラ ムにアクティブラーニングを多く取り入れるよ う、新共通教育科目だけでなく全学カリキュラム へ働きかけた。 2020 年度と比べ 2024 年度は 7%増加した。

通 番	ビジョン-視点-項目- アクションプラン	所管 会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2024 年度到達状況	2024 年度活動概要
				た全学カリキュラムを構築する。（2020-24）			
7	1-1-2-② リーダーシップ教育 の推進	編成 会議	大学教務委員会	リーダーシップ教育の推進にむけて、共通教育科目にリーダーシップ教育に関わる科目を設置する。（2020-24）	5_ 到達目標を達成した	4_目標を達成した	2023 年度より既存科目のキャリア教育開発科目等の授業内で対応することとなった。引き続き 2026 年度以降の新共通教育科目のカリキュラムにおいても、リーダーシップ教育に関わる科目設置を検討するよう、新共通教育科目の作業部会への引き継ぎが完了した。
8	1-1-2-③ ラーニング・コモンズ や図書館の整備と利用 の促進	推進 会議	図書館委員会	図書館の利用状況に関する各種データの充実と、それに基づいた図書館の整備と利用の促進。（2020-24）	5_ 到達目標を達成した	4_目標を達成した	①My Library の利用対象に非常勤講師を追加した。②学外からアクセスできるデータベースを増やすため、マルチメディアセンターと連携して、国立情報学研究所が管理する学認の無料ホスティングサービスを利用し、2026 年 3 月まで試験的に運用することにした。
9	1-1-3-② CASEC スコアの経年 変化を基礎とした英 語教育体制の運用と 改善	編成 会議	大学教務委員会	CASEC スコアの経年変化と現行カリキュラムとの関係を分析・把握し、これをふまえた授業改善案を提示する。（2020-24）	3_ 計画通り進んでいる	4_目標を達成した	CASEC スコアの経年変化および授業アンケートより、英語科目の開講クラス数の縮小による学習効果への影響はないことを確認した。2025 年度に向けてさらなる適正化を図ってクラス配当をおこなった。
10	1-1-3-③ 金城コア科目におけ る英語および外国語 科目の整備	編成 会議	大学教務委員会	英語および外国語科目の授業について、評価・点検と継続的な改善を実施する。（2020- 24）	3_ 計画通り進んでいる	4_目標を達成した	副専攻プログラムの評価・点検の結果、一定の効果が出ていることを確認し、2025 年度に向けての準備を進めている。外国語科目については、2025 年度授業を適正な受講者になるようクラスを配当するとともに、2026 年度以降の外国語科目新体制の準備をおこなった。
11	1-1-4-① 科研費等の競争的外部 資金における申請・分 担参加の奨励	推進 会議	学長室	科研費等の競争的外部資金における申請・分担参加の促進を図る体制の整備（2020-24）	5_ 到達目標を達成した	4_目標を達成した	研究推進マネジメント体制の基本となる、「研究推進事業」「女性みらい事業」「地域連携事業」について活動目的・方針を策定した。

通 番	ビジョン-視点-項目- アクションプラン	所管 会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2024 年度到達状況	2024 年度活動概要
12	1-1-4-② 学内助成や特別研究期 間制度の整備と利用の 促進	推進 会議	学長室	学内助成や特別研究期間制度の整 備や利用を促進する研究推進体制 の強化（2020-24）	5_ 到達目標を達成し た	4_目標を達成した	研究推進マネジメント体制の基本となる、「研究推進事業」「女性みらい事業」「地域連携事業」につい て活動目的・方針を策定した。
13	1-2-1-① 学修ポートフォリオ 等を活用した教育体 制の構築	編成 会議	大学教務委員会	マルチメディアセンターと協力 し、学修ポートフォリオを有効 活用した本学独自の教育体制を 構築する。（2020-24）	2：計画より遅れてい るが進んでいる	2_あまり達成できなか った	複数のポートフォリオ機能について比較検討を 行った結果、本学で採用している manaba および Microsoft365 は、インターフェイス、教員の 習熟度などから、現状では十分とは言えないと判断された。教務システムとの連携なども考慮し、 現在私学で広く採用されている GAKUEN なども含 め、さらに検討を進める。
14	1-2-1-② ループリック等によ る客観的な成績評価 の確立	編成 会議	大学教務委員会	ループリックの学生自己評価と 取得単位数、G P A との関連を 検討することにより客観的な成 績評価を確立する。（2020-24）	2：計画より遅れてい るが進んでいる	1_全く達成できなかった	全学統一ループリックの学生自己評価と取得単位数、G P A との関連を調査したが、相関関係が見 られなかった。新たな客観的な成績評価を確立するため、この結果を新ループリック作成指示する IR 室へ報告する。
15	1-2-2-① 学生、キャリア支援セ ンター、教員の三者連 携による就職支援活動	推進 会議	看護学部自己評 価委員会	キャリア支援センター、看護学部 学生生活委員会の連携体制を構築 し、看護学部学生のキャリア支援 体制を整備する。（2023～2024）	3_ 計画通り進んでい る	4_目標を達成した	看護職への就職支援およびキャリアデザイン形成を促すため、3 年生を対象に就活スタートアップ講座 （5 月 29 日）、病院説明会（7 月 6 日）、就職対策講座（11 月 9 日）を実施した。病院説明会は県内 15 病 院の協力のもと、最大 6 病院から説明が受けられる企画とした。 インターンシップを通じて学生自身が就職の方向性を考える機会を持ち、アドバイザー教員と相談する 体制とした。今後も必要な改善を加えて継続する。
16	1-2-2-① 学生・キャリア支援セ ンター・教員の三者連 携による就職支援の充 実	推進 会議	大学学生生活委 員会	キャリア支援センターと教員が連 携・協力することにより、学生の 就職活動に対する課題解決の方法 を構築する。（2020-24）	5_ 到達目標を達成し た	4_目標を達成した	低年次から参加を促したい「業界別パネルディスカッション」等のイベントについて、K-PORT の活用は もちろんのこと、学内掲示や大学学生生活委員会、各学部教授会を通じての周知を強化し、参加者全体 における低年次生の割合が 4 割となった。
17	1-2-2-② 学生の課外活動やボラ ンティア活動における 支援体制の整備	推進 会議	大学学生生活委 員会	クラブ・サークルのボランティア 活動に係る支援体制を整え、学生 にとって充実したボランティア活 動ができるように支援を行う。 （2020-24）	3_ 計画通り進んでい る	3_目標をある程度達成で きた	コロナ禍の間中は各所からのボランティア要請が激減するとともに、大学からの参加奨励も自粛せざ るを得なかった。最終 2024 年度に至ってもなお要請数は回復せず、守山区区民まつりなど 4 件のみで ある。次年度以降はより積極的な派遣先の開拓に努める。
18	1-2-2-③ 学生のマナー向上の推 進	推進 会議	大学学生生活委 員会	学内および学外における学生のマ ナーの向上。（2020-24）	4_ 計画を上回り進ん でいる	4_目標を達成した	コロナ禍期間中の通学路、教室、食堂等での注意喚起は学生生活支援センター、保健センター、警備室の 多大なる努力によっておおいに奏功した。その他のマナー向上運動は学生会の主体的な活動によって支

通 番	ビジョン-視点-項目- アクションプラン	所管 会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2024 年度到達状況	2024 年度活動概要
							えられた。次年度以降も学生会との連携を重視し、不断の継続によって学生マナーの維持向上に努める。
19	1-2-2-③ 学生のマナー向上の推進	推進 会議	看護学部自己評価委員会	社会人、医療人としてのマナーを身につけ、多様な価値観や文化を尊重し、人間への畏敬の念をもって他者をいたわり、思いやることができる優しさを備える。（2023～2024）	3_ 計画通り進んでいる	4_目標を達成した	・新入生を対象に社会人としての「マナー講座」を開催、2 年生対象に看護師としてのマナー講習（愛知県ナースセンター講師）を昨年に継続して開催した。また 3 年生には、専門領域の臨地実習に備えた実習オリエンテーションにおいて看護倫理について講義した。 社会人としてのマナー、看護師としての倫理などの啓発を継続していく必要がある。
20	1-3-1-③ 新たな大学入学者選抜制度に対応する本学入試の検討	推進 会議	入学センター委員会	新たな大学入学者選抜制度に対応する本学入試体制の整備（2020 - 24）	5_ 到達目標を達成した	4_目標を達成した	総合型選抜入試について、2 つの入試方式とそれに沿った評価方法や配点基準を大学入試実施委員会を中心に検討を重ね決定した。また、2026 年度入試に向けて学長方針に基づき、総合型選抜入試未導入の学科に検討を依頼し、実施することとなった。
21	1-3-2-① 中高大教育協議会等の活用を通じた学校間における相互理解の拡充	推進 会議	学長室	中高大教育協議会等の活用を通じた学校間における相互理解の拡充（2020-24）	5_ 到達目標を達成した	4_目標を達成した	2024 年 8 月 22 日に第 2 回中高大教員交流会を実施し、各校の魅力・課題等を情報共有した。20 以上にわたる中高大教育協議会事業は、コロナ禍により中断していた取り組みも含め逐次精査しながら実施することで中高大の相互理解を深めた。
22	1-4-1-① 全学的な内部質保証体制の整備と運用	推進 会議	大学 FD 委員会	内部質保証体制に関する全学的な理解の徹底と各部門内における組織的かつ多面的な FD 活動の体制整備（2020-24）	4_ 計画を上回り進んでいる	2_あまり達成できなかった	研究科・学部 of FD 活動内容を集めたが、分析はできなかった。中期計画に基づく全学的な内部質保証体制整備はできなかった。次年度に向けて、より実効的な FD 活動が可能な体制を整えていく。
23	1-4-1-① 全学的な内部質保証体制の整備と運用	編成 会議	学長室	各部門において金城学院中期計画大学関連項目に基づいた活動計画書を作成する。さらに、中間報告・活動報告を検証し、教育課程編成会議で次年度に向けた改善の指示及び改善結果の確認を行う。 2020～2022 年度の内部質保証に関わる取り組みの結果を元に教学関連の中期計画の原案を策定し、	5_ 到達目標を達成した	4_目標を達成した	2023 年度までの各学部・学科及び部署の活動報告を検証し、内部質保証に関わる取り組みの結果を元に、2025 年度以降の中期計画の原案を策定した。

通番	ビジョン-視点-項目- アクションプラン	所管 会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2024年度到達状況	2024年度活動概要
				2025年度以降の内部質保証体制の改善・整備を行う。（2020-24）			
24	1-4-1-① 全学的な内部質保証体制の整備と運用	編成 会議	学長室	「大学基準」をふまえた内部質保証体制の整備と運用による改善・向上の推進する（2020-24）	5_ 到達目標を達成した	4_目標を達成した	教育課程編成会議において、各学部・学科からの活動報告を検証し、課題の改善・向上を検討した。
25	1-4-1-① 全学的な内部質保証体制の評価と運用	編成 会議	看護学科	2023年度に続き、看護学部設置計画を履行し、4年にわたる設置計画を達成することを目標とする。（2023-2024）	4_ 計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	2024年7月10日に飯島祥彦先生（藤田医科大学大学院医学系研究科）を迎え、「研究者倫理、研究倫理審査申請における留意点」をテーマにFD研修会を行なった。その他、日本看護系大学協議会（JANPU）および日本私立看護系大学協会主催による各種研修会情報の提供を随時行なうことにより、教員の教育力・研究力の向上に努めた。看護学部設置計画に則って教育を実施し、教育体制の構築に取り組んだ。次年度は、ICTを活用した学びの充実に向けた体制整備を進めていく。
26	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施	編成 会議	学長室	I R室の分析に基づいて、A Pに関係する入試状況と、C PやD Pに関係する教育課程や学修成果の評価を連動させ、3ポリシーを一体的に検証する。（2020-24）	4_ 計画を上回り進んでいる	2_あまり達成できなかった	入学から卒業までの学びが体系的に組織的に実施されているか、3ポリシーをもとに検証できなかった。今度も、ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実質化に努める。
27	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施	編成 会議	日本語日本文化 学科	2026年度からの新カリキュラムへの移行を念頭に、3ポリシー案及び新カリキュラム案を検討する。（2023-2024）	3_ 計画通り進んでいる	3_目標をある程度達成できた	新3ポリシー及び新カリキュラムを完成させた。これらに基づいた各科目の成績評価基準及び学科独自の自己評価DP対応ルーブリックについては、対応が困難な科目もいくつか存在し、今後継続して検討していく予定である。
28	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施	編成 会議	食環境栄養学科	2026年度からの新カリキュラムへの移行を念頭に、3ポリシー案及び新カリキュラム案を検討する（2023-2024）	5_ 到達目標を達成した	3_目標をある程度達成できた	新3ポリシー及び新カリキュラムを完成させた。各科目の成績評価基準及び学科独自の学生自己評価DP対応ルーブリックについては本年度検討できなかったことから次年度以降に検討する。
29	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課	編成 会議	多元心理学科	2026年度からの新カリキュラムへの移行を念頭に、3ポリシー案及	5_ 到達目標を達成した	4_目標を達成した	新しいDPに基づき、一貫性・整合性のあるCP・APを作成した。なお、作成したDP・CP・APは2027年度入学生から使用する。また、各科目の成績評価基準・学生自己評価DP対応ルーブリックについて検討した。

通 番	ビジョン-視点-項目- アクションプラン	所管 会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2024年度到達状況	2024年度活動概要
	程の編成と学修成果の 評価の実施			び新カリキュラム案を検討する。 （2023-2024）			
30	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運 用を根幹とした教育課 程の編成と学修成果の 評価の実施	編成 会議	薬学科	2024年度からの新コア・カリキュ ラムに対応するために、①学びの 特色、②カリキュラム編成、③目 指すべき人材像、④3ポリシーの 一貫性から点検、整理し、学科の AP、CP、DP、目指すべき人材像と アセスメントポリシーを完成させ る。（2023-2024年度）	3_ 計画通り進んでい る	4_目標を達成した	DPの達成度について、ループリック評価表を使って自己評価させ、その結果を検証した。
31	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運 用を根幹とした教育課 程の編成と学修成果の 評価の実施	編成 会議	看護学科	2026年度からの新カリキュラムへ の移行を念頭に、3ポリシー案及 び新カリキュラム案を検討する。 （2023-2024）	4_ 計画を上回り進ん でいる	4_目標を達成した	看護学部設置計画の履行状況について、学科のAP、CP、DPについて①学びの特色、②カリキュラム構 成、③育成すべき人材像、④3ポリシーの一貫性の観点からの点検、課題の整理を行なった。また、看 護学教育モデル・コア・カリキュラムとの整合性、看護師教育の技術項目と卒業時到達目標の視点から の教授内容の確認、学修成果の評価と課題の洗い出し、新教育課程編成に関する会議を定期的に開催し た。次年度は、新教育課程と評価の実施に向けた準備をさらに進めていく。
32	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運 用を根幹とした教育課 程の編成と学修成果の 評価の実施	編成 会議	現代子ども教育 学科	2026年度からの新カリキュラムへ の移行を念頭に、3ポリシー案及 び新カリキュラム案を検討する。 （2023-2024）	5_ 到達目標を達成し た	4_目標を達成した	新3ポリシー及び新カリキュラムを完成し、学科のAP, CP, DPについて、学科主任・教務・FD委員が中 心となって、①学びの特徴②カリキュラムの構成③育成すべき人材像④3ポリシーの一貫性の観点か ら、ループリックの点検と検討をし、学科会議において共有した。

通 番	ビジョン-視点-項目- アクションプラン	所管 会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2024年度到達状況	2024年度活動概要
33	1-4-1-② 3ポリシーの一体的運用を根幹とした教育課程の編成と学修成果の評価の実施。	編成 会議	音楽芸術学科	2026年度からの新カリキュラムへの移行を念頭に、3ポリシー案及び新カリキュラム案を検討する。 （2023-2024）	5_ 到達目標を達成した	3_目標をある程度達成できた	新3ポリシー及び新カリキュラムは完成した。次年度は新科目の授業内容を更に詳細にブラッシュアップしていくと共に、今年度着手できなかった各科目の成績評価基準及び学科独自の学生自己評価DP対応ルーブリックについての検討をおこなっていく。
34	1-4-1-③ ディプロマ・ポリシーに基礎付けられた教学のPDCAサイクルの確立	編成 会議	学長室	DPに基づいた学修目標を具体化し、学修成果についてはエビデンスを基にした情報が各部門に共有され、改善できる体制を構築する。（2020-24）	4_ 計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	2026年に開始する3ポリシーを整えた。各学科における「DPに基づくルーブリック」の作成について、全学で採用する様式や方針の検討を開始した。
35	1-4-1-④ アセスメント・ポリシーの適切な運用と改善	編成 会議	学長室	アセスメント・ポリシーに示されている各種データを基に経年変化や因果関係を分析する。この結果を元に学生・各部門への情報提供を行う。また、アセスメント・ポリシーを改善するための基礎資料を作成する。（2020-24）	4_ 計画を上回り進んでいる	4_目標を達成した	卒業生アンケートと企業アンケートを実施し、その結果の分析し、学内外に公開した。分析結果をアセスメント・ポリシーを改善するための基礎資料として蓄積した。
36	1-4-1-⑤ 「学生自己評価各期ごとのDP対応ルーブリック」を通した学修成果の可視化	編成 会議	学長室	「学生自己評価各期ごとのDP対応ルーブリック」を入学時から卒業時まで年2回実施し、その経年変化を分析することで学修成果を可視化する。また、学生に対して自らの成長に関するデータを提供	3_ 計画通り進んでいる	4_目標を達成した	「学生自己評価各期ごとのDP対応ルーブリック」を前後期各1回実施した。学生が自らの学習成果を閲覧できるようにしたが、全学の経年変化の分析及び学習成果の可視化はできなかったため、今後も継続して取り組んでいく。

通 番	ビジョン-視点-項目- アクションプラン	所管 会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2024 年度到達状況	2024 年度活動概要
				できるシステムを確立する。 (2020-24)			
37	1-4-1-⑥ 外部試験の複数回実施 によるコンピテンシー の経年的把握とその向 上	編成 会議	学長室	外部試験 (PROG テスト) を入学時 を含め在学中 2 回実施し、経年変 化を分析することによって学修成 果を可視化する。さらに、他の大 学や全国平均との比較分析から、 本学の特徴を抽出し、学修目標の 改善に生かす。(2020-24)	5_ 到達目標を達成し た	4_目標を達成した	PROG テスト結果について、全国基準値と各学年・各学科別比較、1 年生過去年度同学年比較（2022 年 ～2024 年）、3 年生成長分析を行い、本学の特徴を抽出できた。
38	1-4-1-⑦ 「卒業に関わる科目の ルーブリック評価」を 用いた学位授与体制の 確立	編成 会議	看護学科	学科の DP に対応したルーブリッ クを作成し、各学年での情報収集 をもとに、4 年間の変化を把握す る評価体制を目指す。	4_ 計画を上回り進ん でいる	4_目標を達成した	2024 年度教育に関する学科別協議会において 4 年間にわたる学習成果を測る指標の作成のために、専門 基礎科学分野の科目および各看護学専門分野の実習科目毎に、ルーブリックの視点について、看護学部 のディプロマ・ポリシーと照合させ、4 年間の学修成果を評価する視点を検討した。次年度はルーブリ ックを仕上げ、4 年間の学修成果についての評価の実施に取り組んでいく。
39	2-1-① 教育・研究活動成果物 のリポジトリ等を活用 した発信のいっそうの 促進	推進 会議	図書館委員会	リポジトリの管理運営の適正な実 施。(2020-24)	5_ 到達目標を達成し た	4_目標を達成した	紀要論文のほか、学位論文をリポジトリに搭載し、問題が無いことを確認した。新たな試みとして、論 文の利活用、永続的なアクセスの確保を目的として、2025 年からリポジトリに搭載された紀要論文に DOI を付与することにした。また、2025 年度から研究データをリポジトリに搭載できるよう関係部署と 調整している。
40	2-1-② 各種講座、講演会、 KIDS センターの子育 て支援活動等を通じた 地域社会への研究成果 の還元	推進 会議	心理臨床相談室	女性みらい研究センター、KIDS センター、および心理臨床相談室 等における研究成果を、持続的に 地域社会に対し還元する体制の整 備（2020-24）	5_ 到達目標を達成し た	4_目標を達成した	複数の相談員が学外の研究会で事例を発表し、相談室での臨床実践を報告できた。また、日本心理臨床 学会のポスター発表にも相談員がエントリーし、発表するなど、研究成果を還元できた。地域貢献とし ては尾張旭市の公立小学校への学習支援活動を継続して行えた。また、園訪問に携わっている相談員の 研究会を年 2 回開催し、相談業務の質を高めることで地域に還元することができた。 相談室の環境整備として、2024 年度は保管室および書架、倉庫の整理整頓を実施した。それにより、院 生や相談員が検査道具を使用しやすくなり、文献も探しやすくなった。
41	2-1-② 各種講座、講演会、 KIDS センターの子育 て支援活動等を通じた	推進 会議	KIDS センター	女性みらい研究センター、KIDS センター、および心理臨床相談室 等における研究成果を、持続的に	4_ 計画を上回り進ん でいる	4_目標を達成した	2023 年度に引き続き、あそびの広場・個別相談・音楽療法などの多面的な子育て支援を実施し、守山区 役所・保健センター・社会福祉協議会などとの連携を続けている。利用者や地域社会のニーズ把握に努 め、大学の資源を活かした子育て支援を次年度も継続する。

通 番	ビジョン-視点-項目- アクションプラン	所管 会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2024 年度到達状況	2024 年度活動概要
	地域社会への研究成果 の還元			地域社会に対し還元する体制の整備（2020-24）			
42	2-2-② 卒業生との連携をより 密にとれる体制の構築	推進 会議	学長室	卒業生との連携をより密にとれる体制の構築（2020-24）	3_ 計画通り進んでいる	3_目標をある程度達成できた	2020 年度修了生・卒業生の集いを実施し、2026 年度以降に実施する集いを起点とした卒業生との連携関係の構築について検討を開始した。
43	2-3-① 地域社会の発展に貢献 することを目的とし た、企業、地方公共団 体、「大学コンソーシ アムセと」等との地域 連携推進	推進 会議	看護学部自己評 価委員会	県・市町村、医療機関、福祉施設、愛知県看護協会、地域の民間団体、東海地域の看護系大学等と連携を図り、地域の保健・医療・福祉の向上に寄与する地域貢献活動を計画する。（2023～2024）	3_ 計画通り進んでいる	4_目標を達成した	・「大学コンソーシアムセと」に採択された2 課題が進行している。 ・看護学部臨地実習施設との連携構築として、2024 年度実習指導者会議・講演会（7 月 19 日、内藤知佐子先生・愛媛大学）を実施した。協力病院等からの参加者も多く、臨地実習の教育連携に貢献しており継続する。 ・高齢者対象の地域貢献として認知症カフェ「カフェ金城」（2 月 12 日）を教員と看護学生 8 名で開催した。本学クラブ・ハーブアンサンブルの音楽鑑賞などを企画し、大森学区・大森北学区住民 30 名と金城学院高校 3 年生 1 名が参加した。次年度以降も継続する。 ・名古屋市消防局・守山消防署に看護学部教員と看護学生 21 名が協力し、エラ・ヒューストン記念礼拝堂前広場にて多数傷病者対応訓練として傷病者救護活動などの訓練を行う（2 月 26 日）。 ・「日本私立看護系大学協会特別事業 地区活動プロジェクト（愛知県）」（3 月 9 日）に参加する。
44	2-3-① 地域社会の発展に貢献 することを目的とし た、企業、地方公共団 体、「大学コンソーシ アムセと」等との連携 推進	推進 会議	学長室	地域社会の発展に貢献することを目的とした、企業、地方公共団体、「大学コンソーシアムセと」等との連携を推進する全学的体制の整備（2020-24）	5_ 到達目標を達成した	4_目標を達成した	地域連携体制の基本となる、「研究推進事業」「女性みらい事業」「地域連携事業」について活動目的・方針を策定した。
45	2-3-① 地域社会の発展に貢献 することを目的とし た、企業、地方公共団 体、「大学コンソーシ アムセと」等との連携 推進	推進 会議	生活環境学部 自己評価委員会	企業、団体、地方公共団体との連携のための恒常的な協議体制の構築と運用。（2020-24）	3_ 計画通り進んでいる	4_目標を達成した	2024 年 10 月 30 日（水）臨時教授会後に F D 報告会を開催し、各学科の学科別協議会での検討事項と内容についての報告を受けるとともに、学科や教員が個々に実践している地域・社会貢献活動に関する成果を学部で共有し、意見交換した。

通 番	ビジョン-視点-項目- アクションプラン	所管 会議	部門	到達目標（実施期間）	計画進捗状況	2024年度到達状況	2024年度活動概要
46	2-3-① 地域社会の発展に貢献 することを目的とし た、企業、地方公共団 体、「大学コンソーシ アムせと」等との連携 推進	推進 会議	薬学部自己評価 委員会	学会活動、薬剤師会活動、地方自 治体、地域活動への協力（2021- 24）	5_ 到達目標を達成し た	4_目標を達成した	日本薬学会への理事（総務担当）活動、日本薬剤師会東海支部会支部活動、愛知県薬剤師会及び愛知県 病院薬剤師会や各種薬剤師研修などの薬剤師会活動への協力を行っている。また、認定指導薬剤師養成 ワークショップへタスクフォースを派遣した。第70回日本薬学会東海支部会総会・大会の開催校とし て日本薬学会東海支部に貢献した。（参加者518名、発表件数136件）
47	2-3-② 守山区との連携による まちづくり、地域福祉 向上、産業振興及び教 育・文化・スポーツの 振興及び発展のための 活動推進	推進 会議	学長室	守山区との連携によるまちづく り、地域福祉向上、産業振興及び 教育・文化・スポーツの振興及び 発展のための活動推進（2020- 24）	5_ 到達目標を達成し た	4_目標を達成した	地域連携体制の基本となる、「研究推進事業」「女性みらい事業」「地域連携事業」について活動目的・ 方針を策定した。

2024 年度独自計画活動報告

—2025 年 03 月 05 日内部質保証推進会議承認・2025 年 05 月 07 日内部質保証推進会議承認—

(独自計画は単年度を基本とするため計画進捗状況などの項目はない)

通 番	所管会議	部門	当年度活動目標	2024 年度到達状況	2024 年度活動概要
48	推進会議	学長室	2026 年度カリキュラム改訂を視野に、魅力的な科目・プログラムの導入を図ると共に、オープンキャンパスのプログラム刷新を含む学生募集戦略を再検討する。	4_ 目標を達成した	2026 年度カリキュラム改訂より、全学科にプロジェクト科目の導入や複数学科が乗り入れる学科連携科目の導入が検討されている。また、オープンキャンパスでは体験コーナーや留学相談をリニューアルし、新たに就職全体説明会を実施し、10 月オープンキャンパスに一般入試対策講座を開催した。
49	推進会議	図書館委員会	学生を主体とする図書館利活用の取り組みとして、図書館学生ボランティア Lilian の学内・学外における諸活動の支援を強化する。また学科やゼミ単位での学生の活動を支援できる環境の整備を検討する。	4_ 目標を達成した	①瀬戸市立南山中学校からの依頼で夏期に LiLian が選書と POP の作成を行った。企画が好評で、南山中学校から今年度中の追加の企画の依頼があり、10 月にブックパーティを開催した。②日本語日本文化学科からの依頼で金城学院中学校生徒への企画を図書館内で開催し、LiLian が企画のサポートを行った。③司書課程の受講生による企画展示を図書館のラウンジで実施した。
50	推進会議	図書館委員会	本学の教育・研究上必要な資料を限られた予算の中で確保できるよう、2024 年度から図書費の配分方法と継続購入資料の選定方法を大きく変更する。今後 に備え、図書費の適切な管理運営ができるよう問題点の抽出を行う。	3_ 目標をある程度達成できた	発注の開始時期について課題が出たため、対応策を講じた。また、継続購入資料の見直しを学科等の意見を踏まえて行い、限られた予算の中で本学の教育・研究上必要な資料をおおよそ確保することができた。また、2026 年度改組に向けた図書費の体制整備を進めている。
51	推進会議	国際交流センター	2020-23 年度の枠で設けられていた中期計画の検証をおこなうとともに、現状に応じた新たな将来構想による中期計画を 2024 年度中に策定する。	4_ 目標を達成した	2020-23 年度の枠で設けられていた中期計画を検証し、現状に応じた新たな中期計画（2025-29）を策定した。またこれにあたり、2017 年度に策定された 2023 年度までの将来構想を徹底検証し、さらに先を見据えた将来構想について 2 月の委員会で審議し、策定する。
52	推進会議	国際交流センター	従来の協定校および新規の協定校とのあいだの受け入れ・送り出し留学を適切に遂行する。	4_ 目標を達成した	2024 年度の受け入れ留学生数は 16 名となって前年度より 1 名増加した。中国からの留学生が少しずつ戻ってくるとともに、新規協定校である台湾の致理科技大学からも初めて留学生を受け入れた。送り出し留学生は 14 名で、人数的には減少の一途を辿っているが、審査等は適切に遂行された。
53	推進会議	マルチメディアセンター	①業務内容などに関するアイデア募集やディスカッションの機会を増やすことで、TA・SA の業務への問題意識とスキルを高める、②外部講師による TA・SA 研修を実施する、③ラーニングコモンズでの学生向けの勉強会の開催などを行い、更なる利用活性化を諮る	4_ 目標を達成した	①業務改善や活性化に関するアイデアを日常的に収集することで、TA・SA の業務への問題意識を高めた。②9 月 17 日に外部講師による TA・SA 研修を実施し、学部、学年を超えた学生スタッフの交流と問題意識の共有がなされた。③ラーニングコモンズでの学生向けのコンテンツとして SA と図書館の LiLian との共同企画を 3 月実施を目処に進めている。
54	推進会議	マルチメディアセンター	① Microsoft Teams のマニュアル作成、講習会・研究会などの実施 ②2024 年度から導入する印刷の新しいルール（年間ポイント制）に関するデータ収集	3_ 目標をある程度達成できた	①今年度の Microsoft Teams の普及に関する特別な活動はしなかったが、本体の Microsoft365 の利用が進み、Teams が利用される条件は醸成されているため、今後も普及のための取り組みを進める

2024 年度独自計画活動報告

—2025 年 03 月 05 日内部質保証推進会議承認・2025 年 05 月 07 日内部質保証推進会議承認—

(独自計画は単年度を基本とするため計画進捗状況などの項目はない)

通 番	所管会議	部門	当年度活動目標	2024 年度到達状況	2024 年度活動概要
					②本年度から実施した印刷ポイントの年間制限を設けた新ルールは問題なく稼働し、印刷枚数は激減し、印刷マナーも向上した。今後もデータの蓄積を行い、改善の必要があれば検討を行う。
55	推進会議	文学部自己評価委員会	研究的 FD 活動として、文学部教員による研究成果を共有する機会を設け、研究活動の活性化を図る。 教育的 FD 活動として、公正な成績評価をテーマとした研修会を開催する。	4_ 目標を達成した	教育的 FD 活動として、2024 年 10 月 9 日（水）に「語学の授業におけるループリックの活用」というテーマで研修会を開催した。研究的 FD 活動については、2025 年 2 月 19 日に教員による研究報告会を開催した。
56	推進会議	薬学部自己評価委員会	薬学部における内部質保証システムを検証し、課題の解決に向けて、必要に応じて内部質保証システムを整備する。	3_ 目標をある程度達成できた	2026 年度薬学評価機構による第三者評価受審に向けての準備の一環として、薬学部における内部質保証システムを検証した。その結果、個々の委員会で独自に行っていた自己点検を見直し、薬学部内部質保証システムの構築を教授会で承認した。更に、システムの運用として、2024 年度薬学部活動計画を教授会で承認した。
57	推進会議	看護学部自己評価委員会	2023 年度に続き、3 年度目の看護学部設置計画を履行し、教育・研究体制の構築を目指す。	4_ 目標を達成した	・看護師教育コアカリキュラムに基づく実習・演習における技術の卒業時到達度を一部追加・修正し、教育内容と技術到達を測る指標の整合性を図った。 ・地域療養体験実習、地域・在宅看護学実習、高齢者看護学実習等の実習施設の追加申請を行った。 ・精神看護学助教の後任教員の AC 審査を申請、承認を受けた。
58	推進会議	キリスト教文化研究所	広くキリスト教文化と福音を紹介するため、公開講演会を実施する。	4_ 目標を達成した	・1 2 月 1 4 日（1 0 時～1 4 時）、第 1 回音楽講習会「リリー音楽アカデミー」が、エラ・ヒューストン記念礼拝堂で開催された。教会の讃美を豊かにするための参加型プログラムで、地域教会及び一般参加者とスタッフ含めて 4 0 名程度で指揮、声楽、オルガン演奏、讃美などの教育プログラムで実施された。福音主義のキリスト教大学としての理解と、活動を知らせるイベントとなった。
59	推進会議	キリスト教文化研究所	学術文化の進展に寄与することを目的に、公開研究発表会を実施する。	4_ 目標を達成した	・2024 年度キリスト文化研究所の公開研究発表会を 7 月 16 日(火)15 時 10 分～1 8 時、N1 棟 406 講義室で開催した。共同研究テーマ（共同研究者 4 名）が 1 件、学術研究 3 件、研究報告が 2 件が発表された。 ・キリスト教史学会(第 75 大会) 本学で開催された。特に、公開シンポジウム・公開講演会の共催を行い、本学のキリスト文化研究所の活動を広報した。
60	編成会議	英語英米文化学科	学科 D P に対応して作成したループリックを実際に運用し、学生の到達度の可視化が有効にできているかの検討を行う。	3_ 目標をある程度達成できた	学科 DP に対応して作成したループリックを実際に運用し、2024 年度 FD 会議において学生の到達度の可視化についての検討を行った。今後具体的な時期と方法を定め、可視化を目指す。
61		外国語コミュニケーション学科	学科 D P に対応して作成したループリックを実際に運用し、学生の到達度の可視化が有効にできているかの検討を行う。	4_ 目標を達成した	学科 DP に対応した「卒業に関わる科目」に関するループリックを改訂した。到達度の可視化が有効にできているかの検討を行い、概ね有効であることを確認した。改訂版に基づいたループリック評価を、卒業式ホームルームで実施した。

2024 年度独自計画活動報告

—2025 年 03 月 05 日内部質保証推進会議承認・2025 年 05 月 07 日内部質保証推進会議承認—

(独自計画は単年度を基本とするため計画進捗状況などの項目はない)

通 番	所管会議	部門	当年度活動目標	2024 年度到達状況	2024 年度活動概要
62	編成会議	生活マネジメント学科	学科DPに対応して作成したルーブリックを実際に運用し、学生の到達度の可視化が有効にできているかの検討を行う。	4_ 目標を達成した	学科 DP に対応した「卒業に関わる科目」に関するルーブリックを改訂した。到達度の可視化が有効にできているかの検討を行い、概ね有効であることを確認した。改訂版に基づいたルーブリック評価を、卒業式ホームルームで実施した。
63	編成会議	環境デザイン学科	学科DPに対応して作成したルーブリックを実際に運用し、学生の到達度の可視化が有効にできているかの検討を行う。	4_ 目標を達成した	学科 DP に対応して作成したルーブリックを運用したうえで、学科で設定した数値目標と到達度を可視化するため、3～4 年生に対してルーブリック対応アンケートを実施し、有効性を確認することができた。また、より定量的な評価を目的として、次年度も継続してアンケートを実施する予定。
64	編成会議	国際情報学科	学科 DP に対応して作成したルーブリックを実際に運用し、学生の到達度の可視化が有効にできているかの検討を行う。	4_ 目標を達成した	ルーブリックの運用を行い、卒業時の到達度を学生へのアンケートによって可視化し、有効性を確認することができた。
65	編成会議	多元心理学科	進路として類似する精神保健福祉士との区別を明確にするため、ユニット分けの在り方について、検討する。	4_ 目標を達成した	ユニット志望提出の際に、精神保健福祉士、公認心理師について、取得を「希望しない」「迷っている」「希望する」の3段階で意思表示できるように設定するとともに、対人援助職に関連の深い3ユニットを具体的に示し、適したユニット選択を可能にした。
66	編成会議	多元心理学科	2 年生後期に公認心理師資格課程のコース選択をするが、その基準などをさらに明確にする。	4_ 目標を達成した	公認心理師資格課程の履修に必要な科目を明示した。また、これまでの履修生の状況を踏まえ、今後の履修の条件として GPA2.5 以上の取得を改めて定めることとした。2025 年度入学生には履修の条件として伝え、それ以前の学生にはこれまでの履修生の成績の目安として伝える。
67	編成会議	コミュニティ福祉学科	学科 DP に対応したルーブリックの運用に向けての課題ならびに具体的な使用方法を検討し、全学的な動向を踏まえつつ、引き続き活用する。	4_ 目標を達成した	現行版を各ゼミ（4 年ゼミ）で学生に周知・確認することで、「卒業論文」および「ソーシャルワーク卒業研究」の指導における効果的な活用方法について検討した。特にルーブリックを通して学科の DP を学生にわかりやすく伝える方法について教員間で意見交換を行った。
68	編成会議	薬学科	自律学修できる医療人を目指した教育の実践として、問題解決型の授業や、春期及び夏期の休暇時における課題の実施、学生会への支援等によって自律学修能力を強化する。	4_ 目標を達成した	W1 棟、W3 棟の自習室を開放し、自学自習できる場所を提供した。利用はコロナ禍以前の状況に戻りつつある。薬学部独自のスパイラル型問題解決型学習システム、構造式演習、計算演習などもコロナ禍以前の状況で実施した。今後学修成果を評価するとともに自律学修を強化する。

2024 年度独自計画活動報告

—2025 年 03 月 05 日内部質保証推進会議承認・2025 年 05 月 07 日内部質保証推進会議承認—

(独自計画は単年度を基本とするため計画進捗状況などの項目はない)

通 番	所管会議	部門	当年度活動目標	2024 年度到達状況	2024 年度活動概要
69	編成会議	薬学科	薬剤師会、病院薬剤師会等の関係諸機関および愛知県内大学薬学部との連携を一層強化し、実務実習実施の円滑化への協力を実践する。	4_ 目標を達成した	例年通り、各大学、各県薬剤師会、各県病院薬剤師会と連携を図りながら、実務実習の円滑な実施にたった。

「2024 年度独自計画報告」に対する外部評価よりの短評

2024 年度学科・専攻数値目標報告
(内部質保証推進会議 2025 年 05 月 07 日承認)

通 番	部門	数値目標の項目	数値目標	結果	自己評価	次年度に向けての改善策等
1	日本語日本文化学 科	大学院や他大学への進学	2 名	5 名	3_ 目標を上回って達成した	
2	日本語日本文化学 科	中高教員試験合格者	1 名	2 名	3_ 目標を上回って達成した	
3	日本語日本文化学 科	司書及び学芸員等への採用	1 名	1 名	2_ 目標を達成した	
4	日本語日本文化学 科	日本文化に関する専門分野へ の採用	3 名	6 名	3_ 目標を上回って達成した	
5	英語英米文化学科	4 年次 12 月の TOEIC L&R	900 点以上 2 名 800 点以上 10% 700 点以上 20%	900 点以上 4 名 800 点以上 17% 700 点以上 40%	3_ 目標を上回って達成した	
6	英語英米文化学科	英語を活かした職業への採用	22 名以上	51 名	3_ 目標を上回って達成した	
7	英語英米文化学科	大学院への進学	3 名	1 名	1_ 目標を達成できなかった	引き続き、説明会等での広報活動や、授業・ゼミを通じて大学院進学の魅力と情報を学生に積極的に伝える。
8	英語英米文化学科	英語スペシャリスト養成プログラム 在籍者 24 名のうち TOEIC L&R (※「英語スペシ ャリスト養成プログラム在籍 者」数は休学留学などによ り、活動計 9 画提出時から活 動報告提出時までの期間で人 数が増減することがある。)	900 点以上 3 名 800 点以上 60%	900 点以上 3 名 800 点以上 62.5%	3_ 目標を上回って達成した	
9	英語英米文化学科	英語スペシャリスト養成プロ グラム 在籍者 24 名のうち TOEIC S&W (スピーキング)	レベル 7 以上 2 名 レベル 6 以上 75%	レベル 7 以上 4 名 レベル 6 以上 75%	3_ 目標を上回って達成した	
10	外国語コミュニケ ーション学科	[卒業時] 中国語検定・実用 フランス語検討・ドイツ語技 能検定 2 級合格者	3 名	3 名	2_ 目標を達成した	

2024 年度学科・専攻数値目標報告
(内部質保証推進会議 2025 年 05 月 07 日承認)

通 番	部門	数値目標の項目	数値目標	結果	自己評価	次年度に向けての改善策等
11	外国語コミュニケーション学科	〔卒業時〕 TOEIC495 点以上の割合	35%	60% (42 名)	3_ 目標を上回って達成した	
12	音楽芸術学科	専門職への採用・専門分野への進学	15 名	18 名	3_ 目標を上回って達成した	
13	音楽芸術学科	ヤマハグレード試験合格者数	20 名	31 名	3_ 目標を上回って達成した	
14	音楽芸術学科	対外的成果発表数	4 名	0 名	1_ 目標を達成できなかった	学生に向けて、コンクールやオーディションの参加を促すなどし、成果発表できる場の紹介や推薦できるものがあれば積極的にしていく。
15	環境デザイン学科	専門性を生かした分野における採用	55 名	計 55 名 (アパレルコース 15 名、 空間コース 40 名)	2_ 目標を達成した	
16	環境デザイン学科	衣料管理士 2 級資格取得率	履修者の 70%	100% (14 名)	3_ 目標を上回って達成した	
17	環境デザイン学科	繊維製品品質管理士の資格取得者	1 名	0 名	1_ 目標を達成できなかった	受験者を増やすとともに、受験に関する最新情報を提供する。
18	環境デザイン学科	空間デザインコース関連資格の取得者	30 名	計 44 名	3_ 目標を上回って達成した	
19	環境デザイン学科	学外コンテストの受賞もしくは社会的に評価された課外活動の件数	各コース 1 件	計 6 件 (空間デザインコース 5 件、アパレル・ファッションコース 1 件)	3_ 目標を上回って達成した	
20	食環境栄養学科	国家資格(管理栄養士)の合格率	90%以上	93.40%	3_ 目標を上回って達成した	
21	食環境栄養学科	専門分野への採用率	70%以上	77%以上	3_ 目標を上回って達成した	
22	国際情報学科	国内旅行業務取扱管理者資格取得者	10 人	4 人	1_ 目標を達成できなかった	ここ数年，資格対策講座の受講生が減少しており，受験者数減少を引き起こしている。資格の有用性を宣伝し，資格対策講座の受講者数増加を実現するように務める。
23	国際情報学科	総合旅行業務取扱管理者資格取得者	5 人	1 人	1_ 目標を達成できなかった	ここ数年，資格対策講座の受講生が減少しており，受験者数減少を引き起こしている。資格の有用性を宣伝し，資格対策講座の受講者数増加を実現するように務める。

2024 年度学科・専攻数値目標報告
(内部質保証推進会議 2025 年 05 月 07 日承認)

通 番	部門	数値目標の項目	数値目標	結果	自己評価	次年度に向けての改善策等
24	国際情報学科	貿易実務検定 C 級合格者	3 人	1 人	1_ 目標を達成できなかった	ここ数年，資格対策講座の受講生が減少しており，受験者数減少を引き起こしている。資格の有用性を宣伝し，資格対策講座の受講者数増加を実現するように務める。
25	国際情報学科	貿易実務検定 B 級合格者	2 人	0	1_ 目標を達成できなかった	ここ数年，資格対策講座の受講生が減少しており，受験者数減少を引き起こしている。資格の有用性を宣伝し，資格対策講座の受講者数増加を実現するように務める。
26	国際情報学科	通関士資格取得者	1 人	0	1_ 目標を達成できなかった	ここ数年，資格対策講座の受講生が減少しており，受験者数減少を引き起こしている。資格の有用性を宣伝し，資格対策講座の受講者数増加を実現するように務める。
27	国際情報学科	世界遺産検定 3 級合格者	25 人	20 人	1_ 目標を達成できなかった	ここ数年，資格対策講座の受講生が減少しており，受験者数減少を引き起こしている。資格の有用性を宣伝し，資格対策講座の受講者数増加を実現するように務める。
28	国際情報学科	世界遺産検定 2 級合格者	8 人	7 人	1_ 目標を達成できなかった	ここ数年，資格対策講座の受講生が減少しており，受験者数減少を引き起こしている。資格の有用性を宣伝し，資格対策講座の受講者数増加を実現するように務める。
29	国際情報学科	世界遺産検定 1 級合格者	1 人	0	1_ 目標を達成できなかった	ここ数年，資格対策講座の受講生が減少しており，受験者数減少を引き起こしている。資格の有用性を宣伝し，資格対策講座の受講者数増加を実現するように務める。
30	国際情報学科	マルチメディア検定ベーシック合格者	30 人	16 人	1_ 目標を達成できなかった	ここ数年は受験者数が減少傾向で，IT パスポート試験などに流れている。後期試験においては，本学の試験会場が無かったことで，受験者数そのものが増えなかった。授業での受験呼びかけを行うように務める。
31	国際情報学科	I T パスポート試験合格者	10 人	17 人	3_ 目標を上回って達成した	
32	国際情報学科	情報セキュリティマネジメント試験合格者	1 人	2 人	3_ 目標を上回って達成した	
33	国際情報学科	基本情報技術者試験	1 人	2 人	3_ 目標を上回って達成した	
34	現代子ども教育学科	公立の幼稚園教諭/保育士の採用試験合格者数（のべ）	20 人	28 人	3_ 目標を上回って達成した	
35	現代子ども教育学科	公立の幼稚園教諭/保育士（臨時採用を含む）の採用	20 人	21 人	3_ 目標を上回って達成した	
36	現代子ども教育学科	小学校または中学校の教員採用試験合格者数（のべ）	15 人	14 人	1_ 目標を達成できなかった	来年度は出来るだけ多くの学生が挑戦するように面談などを通して学生に働きかけていく。
37	現代子ども教育学科	小学校または中学校の教員（講師を含む）の採用	15 人	18 人	3_ 目標を上回って達成した	
38	多元心理学科	精神保健福祉士取得コース修了	7 名中 6 名	7 名	3_ 目標を上回って達成した	

2024 年度学科・専攻数値目標報告
(内部質保証推進会議 2025 年 05 月 07 日承認)

通 番	部門	数値目標の項目	数値目標	結果	自己評価	次年度に向けての改善策等
39	多元心理学科	精神保健福祉士取得コース国 家試験合格者	7 名中 5 名	5 名	2_ 目標を達成した	
40	多元心理学科	専門分野における採用	5 名以上	7 名	3_ 目標を上回って達成した	
41	多元心理学科	大学院・他大学進学	8 名以上	計 9 名 (大学院 8 名、 他大学・専門学校 3 名)	3_ 目標を上回って達成した	
42	多元心理学科	社会調査士 資格取得者	30 名以上	36 名	3_ 目標を上回って達成した	
43	コミュニティ福祉 学科	社会福祉士国家試験の合格率 (新卒)	50%	83. 3% (15 人／18 人)	3_ 目標を上回って達成した	
44	コミュニティ福祉 学科	初級パラスポーツ指導員資格 取得者	30%	58. 3% (14 人／24 人)	3_ 目標を上回って達成した	
45	コミュニティ福祉 学科	中級パラスポーツ指導員資格 取得者	3 人	0 人	1_ 目標を達成できなかった	資格の魅力や意義のさらなる発信に努めて取得意欲の喚起を図るとともに、履修指導や実習のサポートなど、よりきめ細かな資格取得支援を行う。
46	コミュニティ福祉 学科	准認定ファンドレイザー受験 資格取得者	20%	67. 4% (31 人／46 人)	3_ 目標を上回って達成した	
47	薬学科	第 110 回薬剤師国家試験の 新卒合格者数	70 名以上	104 名	3_ 目標を上回って達成した	
48	薬学科	第 16 回薬学共用試験の合格 率	93 %以上	94%	3_ 目標を上回って達成した	
49	文学研究科国文学 専攻	学内外論文掲載、ないし 学内外研究発表	5 件	論文 1 件、研究発表 10 件 (学内 9 件、学外学 会 1 件)	3_ 目標を上回って達成した	
50	文学研究科英文学 専攻	学内外論文記載、ないし学内 外研究発表	2 件	4 件	3_ 目標を上回って達成した	
51	文学研究科社会学 専攻	学内外論文掲載、ないし学内 外研究発表	5 件以上	19 件 【内訳】 論文等 6 件（博士論	3_ 目標を上回って達成した	

2024 年度学科・専攻数値目標報告
(内部質保証推進会議 2025 年 05 月 07 日承認)

通 番	部門	数値目標の項目	数値目標	結果	自己評価	次年度に向けての改善策等
				文含む) 研究発表 13 件		
52	人間生活学研究科 消費者科学専攻	学会発表	1 件以上	2 件	3_ 目標を上回って達成した	
53	人間生活学研究科 人間発達学専攻	学会参加率	80%以上	86.67% (=13/15(臨床心理 学分野 13/14、 発達学分野 0/1))	3_ 目標を上回って達成した	
54	人間生活学研究科 人間発達学専攻	修了年次生の専門職への就職 率 (非常勤を含む)	80%以上	85.71% (=6/7 (発達学分野 0/1 臨床心理学分野 6/6))	3_ 目標を上回って達成した	
55	人間生活学研究科 人間生活学専攻	学会発表もしくは学術雑誌へ の投稿	1 件以上	合計 8 件 (学会発表 6 件、論 文投稿 2 件)	3_ 目標を上回って達成した	
56	薬学研究科	学会参加率	100% (一人一回以上参加)	75%	1_ 目標を達成できなかった	対面参加が難しい場合のオンラインでの参加を推奨するなどの方策を、今後検討していきたい と考える。
57	薬学研究科	学外学会誌投稿論文受理、な いし学外学会発表	3 件以上	4 件	3_ 目標を上回って達成した	